

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
1	1	千田 康治	お帰りの つもりこちらを 向く金魚
2			雲の峰 涼を求めて 金魚鉢
3	2	渡会 克男	令和夏 令子和夫と 金魚に名
4			盆栽と 金魚命や 夏の雲
5	3	小田中 準一	令和来て 十二単の 金魚かな
6			鮮やかに 金魚の舞いし 夜の底
7	4	松下 弘美	ゆらりゆら 金魚に学ぶ 処世術
8			ゆっくりと 泳げ金魚も 人間も
9	5	貝田 ひでを	やぶれたる 金魚のポイの 穴覗く
10			手花火の ポタリと落ちて 手離さず
11	6	栗原 賢尚	袖つかみ 出目金取つと せがむ孫
12			空青し 仲睦遊ぶ 獅子頭
13	7	鈴木 良二	人間の 慢心みてる 金魚かな
14			ロボットと 恋に落ちたる 金魚かな
15	8	中野 弘樹	ぎゅつと踏み 金魚神輿が 駆け抜ける
16			フェリー追う カモメの群れや 春の旅
17	9	大熊 和也	金魚真似 マリリンモンロー 尻尾振る
18			床の間の 金魚三匹 客を待つ
19	10	莊子 隆	丸々の ながす金魚に 親近感
20			涼を呼び ながす金魚が おもてなし
21	11	黒飛 義竹	白壁の 茶道教室 金魚鉢
22			折紙の 金魚園児の 赤い顔
23	12	宮田 賢三	出目金や 車に揺られ 凱旋す
24			ただいまー 金魚目玉で おかえりー

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
25	13	野口 成人	出目金の 夕暮時に 向き変える
26			端っこの 好きな金魚に 餌をやり
27	14	吉田 八知代	白昼夢 眠る金魚の 目の如く
28			琉金の ドレス水面に 翻る
29	15	船津 喜久夫	子供らと 金魚さげゆく 夕日かな
30			咲みあふる 金魚の器 かこむ子ら
31	16	ときめきき	金魚よ 嬉々一匹 令だ和
32	17	藤井 京子	ガラス越し 手でちょんちょんと ハイタッチ
33	18	伊勢 史朗	浴槽に 子の放ちたる 金魚かな
34			君の手の 添ひたる金魚 掬ひかな
35	19	堀 宗一郎	酷暑だぞ 水分摂れよと 氷入れ
36			真冬でも 涼しい顔で 水の中
37	20	大石 伊津子	金魚池 さざなみ赤き 稚魚の群
38			無口の子 金魚へこころ 開きけり
39	21	吉澤 恵子	お祭りで すくった金魚 十五歳
40			水槽に 花を咲かせる 尻尾たち
41	22	山田 和彦	夏終わり 和金の赤も 色が消え
42			竹竿の 裸電球 追う金魚
43	23	吉野 信幸	金魚の世 色は違えど 家ひとつ
44			金魚釣り 時を忘れた 昭和の子
45	24	伊井 真	もう来ない 片恋びとよ 金魚買ふ
46			三千円 金魚花魁 道中か
47	25	湯本 康二	出目金の 常に未来を 見据ゑたり
48			闇追ひやりけり阿蘭陀獅子頭

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
49	26	田村 悟	蘭鑄の 揺りゆらゆら フラダンス
50			おちょぼ口 眺めて飽きぬ 金魚玉
51	27	角森 玲子	水槽に 金魚の汗が 溶けてゆく
52			約束を 金魚のほうが 思い出す
53	28	角森 みゆき	妻の名を 付けた金魚が 肥え太る
54			お客様 先に金魚が おもてなし
55	29	角森 多久哉	音のする ほうに金魚が 泳ぎ出す
56			お目当ての 金魚と彼女 こっち恋
57	30	若原 蒼真	ボールより 金魚をすくう 夏まつり
58	31	若原 悠真	金魚さん 錦の着物で おめかしだ
59	32	若原 貴嗣	逃げ惑う 金魚と目が合い 目を逸らす
60			出目金の 大きな瞳 何を見る
61	33	若原 絵理	おい金魚 口をパクパク 何を言う
62			金魚さん おしりフリフリ だれさそう
63	34	横手 敏夫	猛暑日や 金魚になって 涼みたい
64			涼求め 金魚をすくう 猛暑かな
65	35	坂井 傑	恋をして 星を泳ぐや 金魚かな
66			かなしみを そっと眺むる 宵金魚
67	36	小林 一雄	火の目見る 金魚すくい の 長洲町
68			琉金で 泳ぐ宝石 産む長洲
69	37	吉田 さをり	総踊り 兵児帯揺れて 金魚かな
70	38	大野 美波	出目金は オレと似ていて ハンサムだ
71			出目金を ぽいと渡され うけとりぬ
72	39	幅 茂	おはようと 告げて金魚は 餌を求む
73			赤き依 纏い癒しの 金魚かな

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
74	40	土田 明人	ふれ売りの 声に頷く 金魚かな
75			孫の目に ゆらり金魚の 笑顔かな
76	41	土田 知子	縁日に はしゃぐ子どもの 目に金魚
77			母さんに 着させてもらひし 金魚柄
78	42	柳谷 益弘	羽衣や 天女の舞ひの 金魚かな
79			四つ分けの 金魚羽衣 まとふなり
80	43	宮本 マサ子	夏空や 熱くないよね 水の中
81			夏空に しっかり泳げ 金魚よ
82	44	富澤 弥生	あぶくまで 恋する季節 夏金魚
83			金魚鉢 尾ひれが送る 涼風香
84	45	鈴木 則子	ひとり居や 話し相手の 金魚かな
85			浴衣ショー 大人可愛い 金魚柄
86	46	亀井 千代蔵	赤いベベ うたた寝をして 浮き沈み
87			古里は タテヨコ50 金魚鉢
88	47	斉藤 浩美	金魚玉 見れば目玉 に睨まれる
89			三年B組 鉢の中より 見る金魚
90	48	安東 優汰	金魚鉢 浮かべて泳ぐ ガラス玉
91			夕焼けに 泳いだ金魚 夏祭り
92	49	仲代 奈々子	金魚持ち 幼児歩く そろそろと
93			金魚鉢 仲間さがしに 夏祭り
94	50	堀 卓	あの人の 名で呼びかける 金魚鉢
95			出目金と 目で会話する 深夜二時
96	51	中原 政人	床に伏しながす金魚に見つめらる
97			網破る同じ金魚を狙う孫

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
98	52	山野 大輔	縁日の金魚が結んだ赤い糸
99			パパのことかまってあげている金魚
100	53	長坂 福夫	それぞれの 好みで選ぶ 金魚かな
101			お互いの 自慢の金魚 競い合い
102	54	田中 康明	袂まで濡らし落下の金魚かな
103			蘭鑄に 背鰭なかりし 砂の丘
104	55	小野 智輔	走馬燈 蒼き金魚の 影過る
105			上司の名 付けて呼び捨て 金魚飼ふ
106	56	中村 治樹	旅帰り 金魚が僕を 出迎える
107			ビニールの 金魚片手に 急ぎ足
108	57	添田 麻美	水中花 揺れてゆらゆら 舞う金魚
109			金魚の群 優雅に競う 水中舞台
110	58	馬場 和義	大きな目 私につけてと 孫ねだる
111			教えてよ ぶつからないで 泳ぐこつ
112	59	松本 ひろみ	飼い主に 似たのか腹の 出た金魚
113			金魚飼い 懐・気持ち 涼やかに
114	60	安田 清一	金魚掬い 未練の児には 足す店主
115			破れても 未だ金魚追う 児のまなこ
116	61	村上 美津代	夏祭り ポイ持つ吾子を見つめる目
117			浴衣着て 金魚すくいの子供達
118	62	前田 葉子	雲仙の 見ゆるホームに 大金魚
119			大金魚 ホーム降り立つ人 迎ゆ
120	63	原田 龍之介	泳ぐほかなき 金魚より 貰ふ幸
121			跡取りの 出来し安堵や 金魚売

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
122	64	原田 裕美	尾びれ振る 猛アピールの 金魚かな
123			短きも 長きも金魚 尾びれ振る
124	65	原田 慎之介	愚痴聞いて くれし金魚に 奮起せり
125			魚を目指し たるより速き 金魚かな
126	66	鈴木 満滋	網と夢 掬い返しに 破れたり
127			金魚掬い 父が掬うは この気持ち
128	67	真田 幸村	赤いベベ 着込み出目ちゃん 媚びを売り
129			人間の エゴで出目金 鉢に住み
130	68	清田 三四郎	金魚鉢 外にはまだ見ぬ 世界かな
131			恋すれば 夕日に隠れし 金魚かな
132	69	若槻 泰治	艶やかさ 纏う金魚は 夏の色
133			夏色に 映える水面の 金魚たち
134	70	西川 憲昭	小さい目大きい目泳ぐ金魚鉢
135			一身に光を背負い金魚すくい
136	71	佐藤 毅	軒先に 涼色ゆらゆら 金魚玉
137			箱釣や 学び向き合う 生と死と
138	72	森元 恵美子	帰り来て 真っ先に逢ふ 金魚かな
139			丹念に金魚を見たる 武骨な手
140	73	岡部 晋一	水槽の 金魚と話す 日曜日
141			思い出を バラまいて散る 花火かな
142	74	小嶺 美恵子	ポイ片手 金魚追ふ目の 幼児等
143			鱗ゆらり 心を癒やす 金魚かな
144	75	小林 寛久	走る走る 担ぐみこしの 金魚かな
145			名人の 網をぶち抜く 金魚かな

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
146	76	今北 真奈美	浴衣デビュー 孫とおそろい 金魚柄
147			ふるさとの 金魚泳ぎて 長洲町
148	77	野崎 精子	涼しげな 暑さ知らずの 長洲の金魚
149			風鈴の 金魚が泳ぎ いと涼し
150	78	今北 渚	ゆんわりと 金魚泳ぎて 長洲町
151			孫娘 金魚模様の 浴衣着て
152	79	鈴木 小百合	出目金と 目玉寄せあふ 子の愉悦
153			吾子の手や 金魚掬ふと 引っぱれり
154	80	鮎川 郁夫	涼感を ふんわり醸す 金魚かな
155			金魚飼ひ いのち尊ぶ 家となり
156	81	逸見 修	金魚にも メタボ予防の 腹八分
157			金魚売り 長洲の町に ひびく夏
158	82	井上 靖	おれ金魚 ふれきんちゃんに 逢いにいく
159			フレーフレー ながす金魚が 数珠つなぎ
160	83	上田 昇	ながす金魚になりたいという君 僕・・・
161			小宇宙 彷徨う金魚に 心舞う
162	84	桑原 智恵子	泳ぎたい 小人に成って 金魚鉢
163			目が合った 金魚ちらちら 覗いてる
164	85	山縣 敏夫	白壁の 通りに映える 金魚売り
165			初孫が ジッと見詰める 金魚鉢
166	86	梶浦 公靖	孫去りて 身代わり守り 出目金魚
167			金魚田に 異国語飛び交う 長洲町
168	87	足立 有希	初めての 家出金魚の 鉢抱え
169			黒出目金 水面の空を 泳ぎ切る

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
170	88	高野 清子	金魚にも 天女の如き 舞のあり
171			金魚買ふ これより 吾のマスコット
172	89	田崎 吉二	デカンショも 金魚も悩む 宙ぶらりん
173			緋衣の 金魚舞ひ舞ひ 母の部屋
174	90	森本 まさみ	あずかって 朝夕気になる 金魚鉢
175			夏バテの目に 清涼喚起 金魚鉢
176	91	合志 義文	泡ぷくり 口笛を吹く 金魚かな
177			鱧ふれば 水のオーロラ 獅子頭
178	92	武山 元信	水槽に 金魚住みつき 七年半
179			金魚にも 悩みあるのか この暑さ
180	93	大野 裕貴	金魚鉢 夏の花火に 照らされて
181			乱反射 らんちゅう幾重に 焼きついて
182	94	白石 雅義	百歳と 長洲の金魚 向かい合う
183			一匹の 金魚は不器の 参加賞
184	95	福井 英人	尾びれ振り こちら涼しと ガラスごし
185			背泳ぎの エラの喘ぎと ハラの白
186	96	中村 宗一	夏祭り 買った金魚が 七年目
187			観賞の 金魚すくいが 今メジャー
188	97	重藤 裕	月の裏 泳いすすめ 赤団扇
189			離れた地 祭りの夜に 故郷泳ぐ
190	98	大倉 正也	路地行きし「金魚え一金魚」はるかなり
191			幾たびも「キンギョ」と呼ぶ子 覚えてたて
192	99	山元 敏男	金魚買った 家を建てよう 庭に池
193			娘の世話に 金魚は育ち 夏三度

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
194	100	川面 得英	ポイ破れ 金魚すくひの 水飛沫
195			琉金の 尾びれ優雅に 目を奪ふ
196	101	岩本 梨沙	可愛くて どんどん肥えて ゆく金魚
197			魚入れし ゼリーの中は 小宇宙
198	102	向原 康夫	浮世の事 横目にゆらり 金魚鉢
199			金魚目に 俗世の表 裏も知り
200	103	今田 進	吾子は手に 遂に掬いし 和金持ち
201			日の丸の 丹頂ゆらり 金魚玉
202	104	善徳 照代	いか焼きと 夜市名物 金魚すくい
203			金魚すくい 遠き夜市の 子らの笑顔
204	105	佐藤 奈都子	金魚屋の 啜へ煙草の おやじかな
205			ユーミンの 歌流れをり 金魚玉
206	106	赤松 桔梗	引き受けた 金魚の餌に 悩みけり
207			初盆の 玄関金魚 まだ健在
208	107	北蘭 敬	出目金魚 上を下への 目踊りし
209			ランチウや 上見文化の 粋を見る
210	108	佐藤 重雄	金魚だと 嘘だ重くて 重くて泳げない
211			今は昔 風鈴吊るし 金魚鉢
212	109	仲 正行	夏が来る 金魚人気は 絶頂期
213			夏が過ぎ 金魚の世話は 親まかせ
214	110	河上 輝久	妻似の 出目金泳ぐ 水槽かな
215			ランチウも 妻と比べれば 可愛いもの
216	111	鎌田 誠	孫初の 金魚を飼いて 生命知り
217			夏祭り 金魚が一人 家族増え

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
218	112	松園 誠一郎	盛り上る 金魚俳句で 長洲町
219			長洲者 金魚無しでは 語られん
220	113	西川 留美	羽衣の 長洲の宝 黒の華
221			真剣ぞ 金魚すくいに 子も孫も
222	114	西川 律子	空に舞う 金魚みこしが かけごえで
223			出目金の スイスイヒラリ おもてなし
224	115	吉田 博之	孫すくい アフターケアは 爺がする
225			祖母が着た 金魚の浴衣 似合う孫
226	116	池田 与四也	イケメンの 金魚にばかり 目が行って
227			紅一点 金魚に雑魚が 群がって
228	117	楯岡 和子	伝統の 金魚令和へ 守り継がる
229			わが町の 金魚世界へ 名を馳せる
230	118	佐々木 民世	雨あがる 金魚も未来 見詰めてる
231			反抗期 金魚もなにか 言いたそう
232	119	布谷 軍治	腕白の バケツに揺るる 金魚かな
233			金魚棲む 古泉水の 水煙
234	120	布谷 千壽子	幼子の 釣りし金魚や 水しぶき
235			人影を 映す金魚田 暮れなずむ
236	121	細江 隆一	夕涼み 団扇手足もと 金魚鉢
237			掬うコツ 自己流貫く 子に拍手
238	122	細江 美幸	着流しで 悠々自適の 金魚かな
239			ライト浴び 金魚優雅に 色変化
240	123	岸野 由夏里	金魚来て 親父も口開く 朝餉
241	124	田中 康雄	平成と 令和を流す 金魚かな
242			琉金の 花魁のごと 夏祭り

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
243	125	長峯 雄平	まどろんで 私も泳ぐ 金魚鉢
244			見上げれば 金魚の泳ぐ 夏銀河
245	126	横尾 伸子	長洲より 届く金魚の ストラップ
246			ポイに穴 開いておまけの 金魚かな
247	127	前原 崇	退屈が 聞こえるやうな 金魚鉢
248			びらびらと して原宿の 金魚たち
249	128	木山 一代	朝日浴びて スクエヤ・ダンスの 金魚たち
250			金魚池 海のたそがれ 誘ひけり
251	129	和泉元 良彦	月光に 水路煌めく 金魚かな
252			天の川 羽衣琉金 泳ぎけり
253	130	高野 信夫	川面から 雑魚に交じって 跳ぶ金魚
254			金魚鉢 抱え乗り込む 宇宙船
255	131	桑原 雄二	出目金と 負けちやいそう ならめっこ
256			夫婦の危機 すくった金魚に すくわれた
257	132	香田 明彦	水そうの 金魚の顔を まじまじと
258			悠然と 色とりどりの 金魚たち
259	133	阿部 文彦	小さい手を 合わせて吾子の 金魚塚
260			宇宙への 旅に出掛けて きた金魚
261	134	大森 秀久	揺籃の 金魚育くみ 大いなる
262			金魚田に 海からの 潮風薫る
263	135	嶋田 眞	ゆらゆらと 浴衣の出目金 涼を呼ぶ
264			金魚柄 ゆかたの孫と ポイを持つ
265	136	前田 浩海	リビングの 真ん中に置く 金魚鉢
266			羽衣の やうな尾鰭の 金魚かな

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
267	137	竹田 秋治	ふるさとに 母と金魚と 海があり
268			これからも 金魚と暮らし 憂ながす
269	138	松村 華菜	金魚売り そんな昭和を なつかしむ
270			出目金と 昔話しや 秋深む
271	139	田村 美穂	浮き草を 隠れ家にして 住む金魚
272			喧噪に 浮き立つ人や 金魚かな
273	140	関根 一雄	長洲から 世界へ金魚 泳ぎ出す
274			帰宅する 家族お迎え する金魚
275	141	福島 雅隆	金魚と ファンタジーの 世界続く
276			金魚と 涼しく暮らす 夏の午後
277	142	福島 正晴	初孫を 抱いて金魚に 餌をやる
278			水面で 金魚口を 開けて待つ
279	143	福島 範昭	琉金の 優雅な泳ぎ 癒される
280			水泡眼 命輝く 夏の鉢
281	144	福島 節子	金魚と 至福の時間 夏の午後
282			イライラを 捨てて再生 金魚観て
283	145	井上 英一	ミサイルが 飛ぼうと金魚 泡一つ
284			单身や 金魚の口に 小さき闇
285	146	山元 洋子	越冬より 越夏に弱い 金魚姫
286			金魚すくい あれから三年 名もつけて
287	147	井上 信子	ゆらゆらと のぞき見される 素の私
288			ゆかた着て 金魚も彼も 掬い取る
289	148	谷口 修平	夜店の灯 消えて墓標が 立つ金魚
290			縁日の 恋を覚えて いる金魚

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
291	149	浅野 麻紀子	君だけに 愛滲ませる 金魚かな
292			金魚死す 姓まで書いた 墓標かな
293	150	門脇 かずお	火の国の さすが金魚と 思ふなり
294			退院日 まづは金魚を 掬いけり
295	151	佐藤 邦夫	金魚金魚 当たれば儲け 家が建つ
296			ポイひとつ 金魚金魚の バトル戦
297	152	福井 トミ子	ただいまの 声に近寄る 金魚かな
298			金魚ちゃん かわいい色の 紅の色
299	153	綾部 保知	金魚売り 絶えて令和の 路地づたい
300			よその子もわが子も見てる朱文金
301	154	中澤 仁捷	出目金に 留守を頼んで 旅靴
302			掬い来て 親に飼わせる 雑金魚
303	155	阿部 佳奈	吾の影を 崩して金魚 赤きまま
304			阿の口の 金魚刹那に 咩となる
305	156	石橋 和枝	長洲駅 金魚のレプリカ 客迎ゆ
306			どうどうと 泳ぐ姿の ししがしら
307	157	いしばし りかこ	でめきんは おおきなくちで ぱくぱくと
308			ゆらゆらと しっぽがゆれる あかきんぎょ
309	158	石橋 洸季	目をあけて ねむる金魚 しっぽたれ
310			絵はがきに ゆらゆらおよぐ 金魚かな
311	159	加藤 久子	足し水に おまけの金魚 元気なり
312			じいちゃんに 叱られている 金魚かな
313	160	細川 岩男	夕焼けに プカリプカリと 金魚かな
314			水換えて 清清しきや 金魚かな

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
315	161	小坂 武弘	袋入れ かわいい金魚 連れ歩く
316			故郷は 金魚金魚で おもてなし
317	162	阿部 光子	屑金魚 言われて五年 生き残り
318			縁日の 客を持って成す 金魚かな
319	163	正能 照也	縁日で 見染めた金魚 我が家族
320			孫帰り 夜店の金魚 一人ぼち
321	164	西条 領夏	焼けた肌 君の鱗と 色比べ
322			火のように 赤い君見て 涼し我
323	165	榎本 美恵	悠然と 気の向くままの ししがしら
324			琉金や 子ども見守る 街角に
325	166	榎本 悠希	出目金を やぶられたポイで すくえたよ
326			来るきゃくに しっぽゆらす らんちゅうは
327	167	榎本 悠理	ひらひらと スカートゆらす 赤金魚
328			らんちゅうは しっぽふりふり およいでる
329	168	田中 勝	初デート 金魚の館に コイ生まれ
330			初デート 金魚の里に コイ生まれ
331	169	木村 功汰	死にかけの 金魚に水を 新しく
332			金魚鉢に 姉は清らかさを 与ふ
333	170	牧野 千春	涼しげな 金魚十九の 夏祭り
334			腕まくり 金魚と夏を 追いかける
335	171	山本 新	教室に 金魚を残し 夏休み
336			尾の先に 光を纏ひ 金魚かな
337	172	古川 輝学	夏祭り 花火の音で 舞う金魚
338			夏祭り 人と金魚の 縁結ぶ

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
339	173	水野 結雅	引っ越しに 取り残された 金魚鉢
340			のんびりと 金魚の泳ぐ 祖母の家
341	174	高須賀 光子	頬杖を ついて入日の 金魚かな
342			彩りの 狭しと舞ひし 金魚かな
343	175	福本 みや子	優雅なり 水面に遊べよ 羽衣琉金
344			技磨き 羽衣尾ひれは 末広がり
345	176	右田 俊郎	妹に 金魚すくって あげる兄
346			ふるさとの 路地に金魚 売りの声
347	177	高須賀 尚代	幼子の 昼寝見守る 金魚かな
348			麩を一本 金魚と分けし 昭和かな
349	178	大坪 覚	金魚買う 小さきものに 励まされ
350			どこまでも 澄み切っている 金魚鉢
351	179	阿部 千波	金魚すくい あともう一回と せびる子よ
352			大泣きの 声の向こうに 金魚の群
353	180	藤原 茂法	金魚見て 安堵する町 長洲町
354			町なかを 金魚が泳ぎ 水しぶき
355	181	小金 奈緒美	出目金に 留守を見張らせ 家族旅
356			初デート 金魚すくい 君を釣る
357	182	川野 誠	肝冷やす 金魚鉢への 猫パンチ
358			金魚鉢 凧いで平和を 噛みしめる
359	183	北本 晃大	金魚舞ふ 踊子の手の やはらかく
360			金魚ひらひら 袖のやはらかし
361	184	本多 美咲子	蘭鑄の 尾のゆらゆらと 夢の中
362			凧の時間 染まらずにただよふ 金魚なか

令和元年度「ながす金魚俳句コンテスト」応募作品

応募 作品数	応募 人数	応募者名 (敬省略)	投句
363	185	水野 大雅	出目金の 聞いているような ふりをする
364			泣き顔は 知らぬ和蘭陀 獅子頭
365	186	木村 謙介	琉金のテール すらりと秋模様
366			洒落ゆかた 金魚すくいに はしゃぐ子等
367	187	吉川 智子	恋実る パワースポット 金魚すくい
368			町おこし ながすの金魚 金メダル
369	188	中山 清	金魚だけ 好きなあの娘の 名を教え
370			ラッセンも きっと描きたくなる金魚
371	189	吉田 純志	町ながす 声が聞きたし 金魚売り
372	190	吾郷 洋平	熱帯夜 金魚お供に 帰路急ぐ
373			餌目掛け 金魚が舞う 夜の秋
374	191	金森 美空	羽衣の 風で暑さを ながす夏
375			夏祭り 金魚すくって 人気者
376	192	新家 益一	柔らかに 浮くとも泳ぐ 金魚かな
377			遊びでも すり寄る今期の 金魚かな